



境おやこひろば

子育てをする当事者の目線を大切に 地域の多様なつながりを築きたい

活動は多岐にわたりますが、武蔵野市との共助による子育てひろば事業として定期的に開催されている「collabono コミ



武蔵境エリアの未就学児と保護者の憩いの場である親子ひろば

武蔵境エリアを中心に、おもに乳幼児とその親を対象としたさまざまな活動を行う「境おやこひろば」が発足したのは2014年3月のこと。代表を務める奥野依理子さんと小西美穂子さんは、当時ともに2歳前の第1子の子育てに追われる日々でしたが、そのころの武蔵境周辺には親子で遊べる施設や居場所が少ないのが現状でした。

「吉祥寺や市役所方面まで行けば楽しそうなイベントもあったのですが、小さな子どもを連れて出かけるのは大変でした。子育てには自分たちの住む小さなエリアに特化した情報やつながりが必要になります。無いのなら、当事者である私たちが自主的につくってしまおう。そう思ったんです」と小西さん。「私は復職の予定もありましたが、子育てをする上で地域と距離を置きたい、仕事を続けながらも地域の役に立ちたい、という気持ちもありました。子育ては親だけがするのではなく、地域の人たちと関わりながらするものだと思っていたので」と奥野さんも発足の経緯を語ります。

「親同士のリアルな声が聞けてよかった」などと反響を得ているそうです。活動を続けるうえで大切にしていることは、「当事者の目線や共感」だと言います。「専門家の先生をお招きすることもあります。基本は子育てをする当事者同士の集まり。専業主婦や共働き世帯など、家族の形もさまざまなので、何かに偏ることなく多様性を認め合う場でありたいですね」（小西さん）

3月からは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けてビデオコミュニケーションツールの「Zoom」などを活用したオンラインによる親子ひろばを実施。コロナ禍でもお互いのつながりを維持し、確かな手応えを感じたいと言います。常に柔軟な姿勢で「今、地域の親と子には何が必要なのか」を模索し続ける活動は、これからも続きます。

境おやこひろば

武蔵境エリアを中心に主に乳児と保護者向けの居場所づくりを目指して2014年3月に発足。武蔵野市共助による子育てひろば事業のスタートアップ団体の1つとして「collabono コミセン親子ひろば」を月2回（西部コミセン）、隔月1回（武蔵境自動車教習所）開催。運営メンバーは9名（活動メンバーは約20名）、小学生や乳幼児の子どもを持つ母親を中心に、父親やリタイア後の男性も。



代表の奥野依理子さん、小西美穂子さんほか運営メンバーや協力者の皆さん



Zoomを利用したオンライン親子ひろばの様子